



全国学力・学習状況調査結果について

本年度の全国学力・学習状況調査は、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、4月18日（火）に実施され、本校でも、3年生が参加しました。

この調査は、本校生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活指導などに^{*}役立てることを目的としています。

調査内容は、大きく①教科に関する問題（国語・数学）と②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれています。さらに、国語と数学については、A：主として「知識」に関する問題と、B：主として「活用」に関する問題に分かれています。

8月末に文部科学省から本校の結果が送られてきました。本校では、学園祭や新人戦などの行事への取組と並行して調査結果の分析を行ってきました。このたび、各教科と質問紙調査の分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。

学校では、「各教科における改善点」を基に取組を進めていきます。調査に参加した3年生は、個人票で自分の結果を確認し、今後の学習に役立ててください。また、各ご家庭でも、後述する「ご家庭へのお願い」をお読みの上、ご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。

本校の状況（全国との比較）

^{*} 文部科学省では、全国平均正答率の±5ポイントの範囲内にある場合は、全国平均と「ほぼ同等で、差はないものと判断できる」としています。

本校の国語A・B、数学A・Bの平均正答率は、全国平均をやや下回ったものの、「ほぼ同等^{*}」といえる結果でした。国語では、7割以上の問題で無解答者の割合が全国平均より小さい状況でしたが、数学では、逆に、無解答者の割合が全国平均より大きい問題が多くなってしまいました。

また、全国と同様に、「知識に関するA問題よりも、活用に関するB問題の方が正答率が低い」「記述式の問題の正答率が低い」といった課題があります。さらに、質問紙調査については、「携帯電話などの使用時間」「家庭学習の時間」に課題があります。

[参考] 教科別の平均正答率（全国と本県の公立中学校）

	国語A	国語B	数学A	数学B
全国平均正答率	77.4	72.2	64.6	48.1
本県平均正答率	79	74	64	49

本校の主な成果と課題

国語

全体を通して、国語に対する関心は、全国と比べてかなり高い。特に、「国語は大切だと思うか。」という設問に対し、全員が「当てはまる、どちらかと言えば当てはまる」と答えていることから国語に対する関心の高さがうかがえる。

A 主として「知識」に関する問題

- 設問全体を通して、県や全国平均をやや下回るものの、各領域ともほぼ平均に近い正答率である。また、設問により多少差はあるが、無解答率も低い。このことから、問題を解決しようとする積極的な姿勢が身につけていると言える。



- 書写や古典などの伝統的な言語事項については、全国平均と比べて正答率が高い。特に、行書に関わる設問については、全国平均を大きく上回っている。
- △ 他の領域に比べると「読むこと」についての領域が全国平均を下回っている。中でも、説明的な文章における「文章の要旨をとらえる」「文章の構成や展開・表現の特徴をとらえる」など、文章を正確にとらえる設問が、他に比べて低くなっている。

B 主として「活用」に関する問題

- 全体を通して、県や全国平均をやや下回るものの、各領域とも平均と同じような分布になっている。無解答率についても、設問によって多少差はあるが、低い値を示している。
- 「読むこと」についての領域で、文学的な文章における「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する」という設問は高い正答率になっている。
- △ 与えられた情報を正確に読み取ったり、それを整理して書くなど、「情報を利用する」ことに関わる設問に対しての正答率が低くなっている。また、記述問題における無解答率が、他と比べるとやや高い。

数学

A 主として「知識」に関する問題

- 設問全体を通して、県や全国平均をやや下回るものの、ほぼ平均に近い正答率である。これは、基本的な知識や技能は身に付いていることを表していると言える。
- 「数と式」は、県や全国平均と比べて正答率は高く、特に、四則計算や方程式を解く技能は高かった。
- △ 設問全体を通して、県や全国平均と比べて無解答率が若干高く、課題を深く考えずにすぐにあきらめてしまう傾向がある。
- △ 県や全国平均と同様に、「言葉の意味を問う問題」「グラフの読み取り」「文章問題」「空間図形の問題」などに苦手意識が見られた。

B 主として「活用」に関する問題

- 設問全体を通して、県や全国平均をやや下回るものの、ほぼ平均に近い正答率である。特に、「関数」「図形」の領域では、ほとんど差はない。
- 「数学的な考え方」を問う設問の正答率は県や全国平均を上回っている。
- △ 設問全体を通して、県や全国平均と比べて無解答率が若干高い。また、考え方や判断の理由などの説明問題は、県や全国平均と同様に正答率は低かった。
- △ 「資料の整理」は、県や全国平均と比べて正答率が低く、資料から必要な情報を取り出し処理したり、説明することに苦手意識をもっているようであった。

$$x^2 - 3x - 18 = (x+3)(x-6)$$



各教科における主な改善点

国語

- * 言語事項は確実に身につけさせたい。特に、漢字の読み書きについては小学校からの積み重ねが大きいので、連携を考えていくことも必要かと思われる。また、授業の中でも、漢字や文法、作文などの学習を中学校入学時から継続的に行い、言語能力の育成を図る。
- * 文章を正確にとらえ、正確に伝えることができる力をつけるため、授業中での話し合いや、考えを交流する機会を意図的に設定していく。
- * 情報を利用する力をつけるため、文章を書く際に構成を意識し、それが適切かどうかについて振り返る学習活動を行う。

数学

- * 「無解答率」や各領域の「知識や処理、考え方」の課題については、基礎的知識の徹底や基本的な問題をたくさん解くこと、また、困難な問題にも諦めずに粘り強く考えて解くことの大切さや解けたとき

の達成感などを体感できるよう、授業内容や指導方法を改善していく。

- * 「資料の活用」領域の課題については、学年の系統性がなく、言葉の意味を知らないと解けない問題が多いので、授業での知識や技能をしっかりと身につけさせ、長期休業中の課題として毎回取り入れていく。
- * 「関数」領域の課題については、授業の中で、式と表、グラフの相互の関係を理解し、具体的な事象について、数学的な考えに基づいて事柄が成り立つ理由を説明できるような機会を設定するなど学習補強に取り組んでいく。
- * 「B問題の活用」に関する問題での正答率を高めるために、授業の中に、身近で生徒の学習意欲を高められるような課題を適切に位置づけ、筋道を立てて数学的に説明する力（記述力を含む）の育成に取り組む。

質問紙調査から見る本校生徒の主な特徴

質問紙調査は、学校や家庭における勉強や生活の様子について調査したものです。全部で94項目ありました。本校生徒の生活習慣や家庭学習、家庭での過ごし方などの主な特徴は次のとおりです。

生活習慣について

- * 「朝食を毎日食べている」としている生徒が7割を下回り、県及び全国平均を大きく下回っている。
- * 9割弱の生徒の起床時間はほぼ一定であるが、「起床・就寝時間がほぼ決まっている」生徒の割合は全国をやや下回っている。
- * 平日にテレビ等を3時間以上視聴する生徒の割合は全国平均を大きく下回っているが、半数近くの生徒が2時間以上視聴していて、全国との大きな差はない。
- * 平日のゲームに費やす時間が2時間以上と答えた生徒が昨年は半数あったのに対し、今年は3分の1にとどまっている。また、全くしないと答えた生徒が約2割だったのに対し、4時間以上していると答えた生徒も1割いる。
- * 平日に携帯電話等での通話やメール、インターネットをする時間が1時間未満の生徒は、持っていない人を含めて4割弱である。これは、全国の5割に比べてかなり少なく、3時間以上利用する生徒が4分の1いることを考えると、本校の生徒のネット利用率が高いことがわかる。



自分や友達、学級について

- * 「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」と答えた生徒の割合は8割で、全国平均を上回っている。
- * 「失敗を恐れなくて挑戦している」という問いに、7割の生徒が「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と答えている。
- * 「将来の夢をもてていない」生徒が全体の3分の1いる。キャリア教育などをとおして、将来像が描けるようにしていく必要がある。
- * 「友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意」な生徒は約2割と少なめだが、多くの生徒が友だちの意見を最後まで聞き、自分の考えを持つようにしている。
- * 「人が困っているときは進んで助けていますか」という問いに、「あてはまる」と答えた生徒は、県平均の半数を下回っている。

学習について

- * 平日の家庭における学習時間（塾や家庭教師も含む）は、3分の1の生徒が2時間以上である。しかし、1時間未満もほぼ同数である。全体からみて学習時間が十分確保できているとは言い難い。

- * 休日に3時間以上学習する生徒の割合は2分1を超えており、県及び全国平均を上回っている。
- * 家で計画的に勉強している生徒の割合は全国とほぼ同等だが、2割には届かない。半数の生徒は宿題をやっているが、その割合は全国よりも少ない。予習をしていると答えた生徒は1割に満たないが、復習をしている生徒は全国の平均を上回っている。
- * 学校で好きな授業があると答えている生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- * 1・2年生のときに、生徒間で話し合う授業や、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えを発表する機会がある授業が行われていたと答えた割合が県及び全国平均を大きく上回っている。また、授業の最後に振り返る活動をよく行っていた授業も全国平均を上回っている。
- * 授業で扱うノートに目標とまとめを書いていたと答えたのは全国よりもかなり低くなっているが、本校では教科ごとに工夫された学習カードに目標とまとめを行う取組を進めているからと考える。



地域や社会への関心について

- * 地域行事への参加率は、全国平均とほぼ同じだが、県平均の半数と低くなっている。
- * 地域などのボランティア活動には6割が参加しており、県及び全国平均を上回っており積極的である。

質問紙調査からの改善点

- * 学習時間を増やす工夫を行う
 - 各教科について学校や家庭での学習の仕方などをまとめた「家庭学習のてびき」を作成・配付しているが、今年度は新たに掲示用のシートを工夫した。また、どんな勉強をしたらよいかわかるように、手引きには自主学習の課題例も掲載している。さらに、生徒会と連携し、学習環境の改善や自主学習の習慣化など「学習規律」の確立に取り組み、学習習慣の形成に取り組んでいる。
 - 「NO TV・ゲーム・スマホデー」という取組をテスト前に行っているが、学区の小学校にも呼びかけ、小中連携での取組を推進し、意識して時間の有効活用を図り、家庭学習の充実をめざしている。
- * 考えさせたり発表させたりする場面を取り入れた授業を実施する
 - 授業内で、小集団活動を取り入れ、考える時間を十分とったり、発表し合ったりする時間を設け、主体的・対話的で深い学習を行っている。また、教科ごとに学習カードを工夫し、「見通し（目標）」と「振り返り」を意識した授業を行っている。
- * 地域とのつながりをさらに深めていく
 - 地域のさまざまな活動に積極的に参加したり、総合や道徳以外にもゲストティーチャーを教科の授業に招いたりするなど、地域との交流が図れるように工夫している。
- * 進んで周りの人との関わりを深めていく
 - 学校における生徒同士の関わり合いを様々な場面で設定し、お互いの気持ちを意識した深い関わりを通して、心の成長を図れるよう工夫している。

* ご家庭へのお願い *

- * 意欲をもって学習に取り組んでいる様子がうかがえますが、学習時間が少ないため確実に身につけてほしい基礎的・基本的なことが定着していません。学習時間確保やトラブル防止の面から、携帯電話やスマホ、ゲームの利用時間（しない日を含めて）について、お子さんとルールを作ってください。
- * 生活習慣と学力は関係が深いものです。生活リズムを整え早寝、早起き、朝ご飯の習慣を親子で実践していただけますようお願いいたします。また、読書と学力の間にも密接な関係があることがわかっています。ご家族で読書のひとときをつくっててください。
- * 地域の活動にはお子さんと一緒に参加していただくなど、日常的に関われますようご協力をお願いします。